



やま のぼ 山に登ると、どうしてくうき 空気はうすくなるの

きあつ ひく 気圧が低くなる

きあつ くうき おも あつりょく もの ちから きあつ
 気圧とは、空気の重さによってできる、圧力（物をおしつける力）のことで、きあつ
 たか ところ ひく たか きあつ じめんちか
 高い所へいくほど、低くなります。5000メートルの高さになると、気圧は、地面近く
 はんぶん
 の半分ぐらいになります。

きあつ ひく くうき たか やま のぼ いきぐる
 気圧が低くなるということは、空気がうすくなる、ということです。高い山に登ると息苦
 くくなるのは、くうき
 空気がうすくなっているためです。

たか ざん やく ばい たか くうき りょう
 高さ16キロメートル、エベレスト(チョモランマ)山の約2倍の高さでは、空気の量は
 ちじょう ぶん たか くうき りょう ちじょう
 地上の10分の1になります。さらに、30キロメートルの高さになると、空気の量は、地上
 の100分の1になってしまいます。

たいき 大気はかぎりあるもの

ちきゅう み たいき そう ちきゅう
 スペースシャトルから地球を見ると、大気の層はともうすいものです。地球をリンゴに
 たいき かわ あつ
 たとえると、大気は、皮の厚さぐらいしかありません。

ちじょう じょうくう くうき ちきゅう たいき
 地上100キロメートル上空では、ほとんど空気はありません。このように、地球の大気
 は、かぎりあるものです。ですから、たか やま のぼ くうき
 高い山に登ると、空気はうすくなります。

（監修・国司 真）

